

戦姫絶唱シンフォギア
—漆黒を纏う者—

ドラゴニール

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

「彼」は、皆から恐れられていた。しかし幼い命を助けるために命を落とした、、、はずだった?!

神様によってシンフォギアの世界に転生する、

人間してではなく、闇の聖遺物として、漆黒の力で戦う「彼」の名は

イーター

「喰らいし者」

目次

シンフォギア編

第1話「転生」

キャラ設定

ノーネイマーズ

歯車

1

6

15

23

シンフオギア編

第1話「転生」

ある白い空間で一人の少年が目を覚ました。

「んぐう……どこだ、……ここ？」

(あら、目を覚ましたみたいね)

声のする方を見てみると白いパーカーを着た少女が立っていた。

「ここはどこなんだ？俺は一体……それにあんたは？」

(んぐここは死者の来る世界。んでもって私は君たちが言う所の神様！かな……？)

「ふくん、つていうと俺しんだのか？」

(ええ、……トラックに跳ねられそうになった子供を助けようとして……)

「そうか、あのガキ助かったか？」

(ええ……)

「そうか、よかった……」

(けど、悲しんでる人もいるよ?)

「んな訳ねえだろ、俺はみんなに怖がられてたし、嫌われてた、だから俺が死んでも誰も（そんなことない!!）えっ?」

（あなたは確かに怖がられてた、でも嫌われてはなかった、）

と言いつ水晶玉を出す。

（ほら、、）

すると水晶玉がヒカリだし何か写りだす。すると、、、、

「これは、、」

（そう、君のいた世界、）

すると、葬儀場が映し出され そこには不良仲間や、家族がいた。

「○○○さん無敵だつて言ったじゃないですか!」

「お前ら、、」

「おにいちゃーん! やー! 死んじややー」

「イオ、、」

「このバカ息子!!! 親より先に逝く馬鹿がどこにいる!!!」

「親父、、」

「お父さん、そんなに怒らないでだつてこの子は、うっうう、、」

「母さん、、」

(どう?)

「なんだよ、俺が気付いてなかっただけかよっ、、、、、！」

彼は涙を流してそういった。

・
・
・

(どう落ち着いた?)

「ああ、すまねえな、」

(実は、君に相談があるんだ。)

「なんだ？」

(君、転生しないか?)

「どういふことだ？」

(君のいた世界には無理だけど違う世界に)

「どういう世界だ？」

(戦姫絶唱シンフォギアっていう世界でそこには「ノイズ」っていう人を炭にする怪物がいるんだけど、)

「うんその世界行くわ」

(えっ?! いいの?!)

「その世界でノイズっていう奴らを倒せばいいんだろう」

(ありがとう! んじゃやすきな力を言ってそれを君の力にするから!)

「んじゃあ、ドラゴンにしてくれ! 人間っぽくたのむ後腕や身体が思った武器になるように後それとは別にノブナガンのイーजीンの能力も、後病気や怪我也も治せる能力も! 後、超速再生も! 後、」

(ノイズに触れても大丈夫ようにするよ! あ! 後これも!)

と言いつ黒い光の玉が少年の体に入っていく

「なんだ?」

(闇の者だった力、君なら使いこなせるとおもってね、)

「サンキュー」

(あ! 後君を聖遺物にするね!)

「聖遺物?」

(うん、自分の愛する人達と両想いにならないと死なないんだ。)

「ああ、分かった、ありがとよ、んでどこからいくんだ?」

(そこ。)

見てみるとそこには穴があり

(その穴を抜ければ到着だよ)

「あんがとよ、」

と行こうとすると、

(少し、うかつがてもいいでしょうか?)

「なんだ?」

(もし、明日笑えない日が来るといふのなら)

すると少年は笑いながらこう言った。

「それなら明後日倍笑う!」

(わかりました!では最後に名前をいいでしょうか?)

「ああ、俺はレント、コトブキ・レント」

(それでは、レントさん、)

「ああ、ありがとう名神様」

と言いレントは穴に落ちる

(レント掴むのよ幸せを、、、)

つづく

キャラ設定

人物紹介

名前（コトブキ・レント）

性別（男にも女にもなれる「聖遺物だから」）

聖遺物名（喰^イらいし者^{ター}）

所有聖遺物（ゲイ・ボルグ）

好きなもの（仲間、笑顔、モノづくり）

嫌いなもの（正義、いじめ、何も知らないクセに決めつける奴、政治家、政治）

性格（トガツテいて怖がられているが本当は、仲間思いでやさしいが不器用へでも手

先は、器用）

トトラックに跳ねられそうになった子供を助けようとして命を落とし神様によって
〈シンフォギア〉の転生する、が人間としてではなく聖遺物として、：

通常時は人間に化けているが腕や足に鱗があり油断したり興奮すると額から角が出るので帽子と長袖の服でいる。

服装はTシャツにコートパーカーにジーンズで腰にはX型のベルト、右目だけ三白

眼。(見た目は中学生くらい)

「喰^イらいし者^{ター}」

コトブキ・レントの真の姿である完全聖遺物、魔の闇の聖遺物と言われている。

メインカラーは黒で身体に赤いラインがあり、姿は人よりのドラゴンのような姿で身体中に鱗があり鎧のようになっていて。額に角がありドラゴンのようなギザギザな口、おしりからは竜の尻尾があり腰からはマントのような膜のようなマントが出ており、腰にはブースターが、背中から尻尾にかけて背びれがある、腕は日本武者のような鎧のよくな腕だが肘あたりから角が出ており脚はドラゴンようになっており目は右目だけ青く光っている。

「レント「イーター」は、本当に愛してるモノと両想いにならない人間のようにと老いないし死なない。」

能力

「喰^イらいし者^{ター}」

—喰らったものなどの姿、チカラなどをコピーできる。

「コピー」

見たものをコピーできる。

使える力

「ウヴァ」

「仮面ライダーオーズ」にて登場する緑の欲望の怪人、〈グリード〉上からクワガタ、カマキリ、バッタのようなデザイン分身能力もあり、

虫の能力も使えクワガタのような角から光線を出せ、腕から出るカギツメも武器の1つである。

原作と違う所は、五感、いや、六感まである。

「アンデット・ジョーカー」

「仮面ライダー剣」に登場する怪人、不死身の生命体でカミキリムシのような、道化師のような姿をした怪人、腕と脚の左右のデザインが違う、右腕から生えている剣が武器

「バーサーカー」

「Fate/Zero」に登場する鎧のサーヴァント。

傷だらけの黒いフルプレートを纏った騎士。

宝具〈ここでは能力〉

騎士は徒手にて死せず

手にしたものに「自分の宝具」として属性を与え扱う能力、どんな武器、どんな兵器でも手にし魔力を巡らせることで疑似宝具となる、

原作と違う所は、武器だけではなく物もできるしレント事体の意思があり暴走はしない（多分）、能力を封印しなくても「無毀なる湖光アロンダイトを使用できる。

「無毀なる湖光」

バーサーカーの真の宝具、

人ならざる者によつて鍛えられた、決して刃こぼれしない無窮の魔劍。

「ジガ」

『ジガーZIGA』に登場する怪獣、体長84.54mを誇る巨大な二足歩行の爬虫類めいた体躯に長い腕と尻尾を持つ、必殺技は手のひらから出す熱線生体元素破砕光ジガレストバ、また左腕を槍状に変化させる事ができ、胸骨をボウガン状に打ち出す事ができる。

原作と違うのはダオンがいなくても変身できる。

「ギドラ」

「ゴジラ」に登場する宇宙怪獣、最初はへモンスターXという怪獣より、怪人よりの姿をしている。体格はシユツとしている。

2本の角が生えた頭部に加え、全身鎧のような外骨格上の皮膚に覆われており両肩にも縦半分になった骸骨のような外骨格ついている。

必殺技は稲妻状の光線を頭部と両肩の骸骨から放つ「引力光線デストロイト・サンダー」

覚醒すると両肩の骸骨上の外骨格は飛び出して変形し頭部に、外骨格は、全て融けるようになくなり全身が大きくなり体色も金色に変化し翼も生え、両腕は前脚の形になり四足歩行動物のようになり、キングギドラを含める全てのギドラ族の頂点の存在「カイザーギドラ」になる。

必殺技は、三つの首から放つ「反重力光線デストロイト・カイザー」

「ダークメフィスト」

「ウルトラマンネクサス」に登場する闇の戦士。背骨や肋骨状のモールドに意匠を入れている。胸にはネクサスのエナジーコアに似た模様も刻まれている。

右腕のアームメフィストにはカギ爪状の武器メフィストクローを装備し、必殺技は腕を十字にして放つ破壊光線「ダークレイ・シュートローム」。

覚醒すると「ウルトラマンノア」に酷似した闇の破壊神「ダークザギ」になる。

「ザギの技」

「ザギ・インフェルノ」

敵に暗黒の炎を纏った拳を叩き付け、一兆度の炎の柱で吹き飛ばす技。

「グラビティ・ザギ」

両腕から放つ黒色の超重力光線

「ザギ・リフレクション」

円形型のバリアを張る。

「ザギ・ギヤラクシー」

周囲に無数の隕石群を突如出現させ、暗黒波動で誘導し対象にぶつける技。

「ザギ・ウェーブ」

怪我を瞬時に回復する治癒光線

「ザギ・ザ・ファイナル」

自身の暗黒エネルギーを放出し、全ての光を、闇へ変換する、またレントはその逆も可能

「ライトニング・ザギ」

ザギの必殺技。

ノアのライトニング・ノアとは逆の構えで放つ赤黒い必殺光線

「ゼイラム」

「ゼイラム」に登場するの太古生物兵器。目はバイザーしていてボロボロのマントをしており頭に笠をかぶっている。デザインは「ゼイラム2」

化け物を作れ、身体中に武器を装備している、原作と違うのはクローンは作れないし、胸や笠には顔がない。

「仮面ライダー」

女神からもらった能力で、ベルト（ドライバー）で変身できる。

変身できるのは「ゼクターライダー（主に仮面ライダーダークカブト）」、「仮面ライダーメタルビルド（フェニックスドラゴン）」、「仮面ライダー忍」、「ミラーライダー」

「イー・ジーン」

「ノブナガン」に登場した能力、身体の一部武器にできる。

以上これらは能力

だけでも使える。

名前（コトブキ・カンナ）

性別（女性）

聖遺物名（ネフィルム）

好きなもの（仲間、お菓子）

嫌いなもの（いじめ、ナニカ）

性格（子供っぽい、人懐っこい）

ーレントが、昔倒した(ネフィルム)から出てきた一部。

姿は小学3〜4年生くらい、髪は白くてちよつとボサついていてロングポニーテール、目の色はちよつと赤が入ってる、覚醒すると高校生(翼)くらいになる、本人は自分の事はまだ知らないがレントは自分の本当の妹ように接しており、また本人も本当の兄のようになっている(特にユウコとレント)ミラーモンスターと仲がいい。

なれるライダーは「ミラーライダー(主にアビス)」

名前(ユウコ・タニ)

性別(女性)

年齢(19〜20歳)

ーゴジラの世界から、(ハルオ)と一緒に転生してきた「転生者」。

メンバーのなかではお母さん、お姉ちゃん的存在で武器の修理やコンピューターや操縦が得意、カンナからは、「ユウコ姉ちゃん」と言われなつかれている、怒ると怖い。「実はハルオが好き」

なれるライダーは「ミラーライダー(主に仮面ライダーファム)」「ゼクターライダー」「仮面ライダークイーズ」

名前(ハルオ・サカキ)

性別（男性）

年齢（24歳）

—ゴジラの世界から、（ユウコ）と一緒に転生してきた「転生者」。

真面目かつ誠実な熱血漢で、やさしく、いじめや犯罪を許さない、ゴジラの事はもうあまり恨んでいない。

カンナからは、「ハルオ兄ちゃん」と言われている「実はユウコが好き」

なれるライダーは「ミラーライダー（主に龍騎、リユウガ）」「ゼクターライダー」「仮面ライダーキカイ」

名前（上窪誠司）

性別（男性）

—仮面ライダーアマゾンズの世界から、転生してきた「転生者」。

人間ではなく、アマゾン（カブトガニアマゾンである。だがレント達のおかげで食人衝動はなく、カンナからは「誠司おじちゃん」と言われている。

なれるライダーは「仮面ライダーアマゾン、シグマ、ネオアルファ」

「ミラーモンスターは擬人化可能」

ノーネイマーズ

あの日から色々あった、、、、白髪の子助けたり、錬金術師と闘ったり、紛争地域に行つて捕虜助けたり、ノイズ倒したり、化けモン倒したり、身体鍛えたり、でも、、、救えたモノもあれば救えなかつたモノもあつた、それでも俺は手を伸ばさず、だつて今は、、、

? 「おーい、レント」

赤毛の女性がレントを呼ぶ。

レント「おう、なんだ? 奏」

奏「なんだじゃあねえよ、せつかく休みの日誘つてやったのに、何ボウつとしてんだよ!」

レント「おつと、そいつは、すまねえな」

奏「まったく、、、相変わらず変な奴、、、ところでレント、」

レント「ん? なんだ、?」

奏「明後日、なんか予定あるか?」

レント「明後日？別になんもねえよ。」

奏「実は、あたしと翼がアイドルやってるの知ってるだろう？」

レント「ああ、確か（ツヴァイウィング）だったっけ？」

奏「ああ、そのコンサートが、明後日あんだけど、」

奏は少し恥ずかしげに

奏「見に来てくんねえか？」

少し恥ずかしそうに言う奏を見てレントは

レント「ニヤリ、」

レント「アツタリめえだ！見に行くぜ、絶対にな！」

すると

奏「おう！楽しみに待ってるぜ」

と嬉しそうに言う。

それから、2人色々シヨッピングしたりした。

奏「んじやな！レント！楽しみしとけよ！」

レント「おう！楽しみしてるぞ」

と言いいレントは奏と別れる。

レント「いやー楽しかった（ピリリリリ）ん？ユウコからか、」

と言い携帯電話にでる。

レント「はい、もしもし、「レント！○○エリアにノイズが出たわ！」！了解今からそこに向かう」

レントは電話をきり建物の影に隠れ悪魔の様な仮面をかぶり、

レント「さあ、名の無き者達ノーネイマーズの出勤だ！」

と言って背中から黒い翼を羽ばたかせ夜空を舞う。

．．．．．

どこかの海岸、ノイズ達が蹂躪している。すると、

？「うおりやあああああ!!!」

黒いコートパーカーを着た仮面の男が空からライダーキックのように蹴りを繰り出しノイズを貫く。

そう、レントだ。

レント「このクソが、！こんなにウヨウヨ出やがって、」

と言うとノイズ達はレントを攻撃し辺りに煙が舞いノイズ達はまた蹂躪を開始する、
が

？「おい、、、待てよ、、、。」

と言う地獄の底からするような声に反応し自分達が攻撃した所を見て見るとそこには異形の者がたつていた、

身体は黒く亀裂のような深紅の模様、額からは二本の角、腰からはマントのような物が出ており隙間からは尻尾が見え、腕は日本武者のような鱗の鎧またその腕からは鬼のような角が出ていて、その姿はまさしく「地獄の竜人」のようにもうかがえる、レントの真の姿喰らいし者である。

イーター「来いや、ノイズ、共、」

と言うとノイズ達はレントにむかってくるが、

イーター「うおりやあああああああ!!」

イーターは真正面からむかってきノイズを殴り飛ばしていく

イーター「クソが!まだこんないやがる」

すると1体のノイズがイーターの攻撃をしかける。

イーター「!やべっ!!!」

しかし、、

? 「ライダーシュート!」 Raider shoot
? 「STRIKE VENT」

突然飛んできたエネルギー弾と炎によってノイズに命中し倒される

イーター「おう! 助かったぜ! ユウコ! ハルオ!

攻撃が飛んできた方向を見ると、そこにはユウコ・タニが変身した仮面ライダードレイクとハルオ・サカキが変身した仮面ライダー龍騎が立っていた。

龍騎（ハルオ）「たくっあぶなかつたな」

ドレイク（ユウコ）「っていうか、なんでわかるんですか?」

イーター「匂いで普通わかるだろ」

ドレイク「わかるんですか?!」

龍騎「ユウコ、アイツは特殊だ」

イーター「まつ、それは置いといて、、、いくか、、、!」

龍騎ドレイク「ああ! / はい!」

と言い3人はノイズに向かっていく

龍騎「, S W O R D V E N T, うおおお!!」

ドレイク「はあ!!」

龍騎は召喚した剣でノイズを切り裂き、ドレイクはドレイクゼクターガンモードで撃

ち貫く

龍騎「これで終わりだ!!' F I M A L V E N T ,」

すると海から赤色の龍, ドラグレッター, が出現する、

龍騎は空高く跳びドラグレッターの炎を纏った必殺技(ドラゴンライダーキック)でノイズを倒す。

龍騎「ふうー」

ドレイク「ハルオ先輩やりますね、ではこつちも、ライダーシユート, r i d e r s h o o t ,」

ドレイクは必殺技の(ライダーシユート)でノイズを打ち貫く。

イーター「2人ともやるねえ、んじやこつちも」

と言いイーターは右腕から機械のような球体(イー・ジーンボール)を作成する。

イーター「ジェロニモ、、、」

というと右腕が光に包まれトマホークに変化しノイズを切り倒していく。

イーター「ううううああああああ!!!」

するとノイズを出していた司令塔のノイズが現れる。

イーター「ほおう、ラスボスのご登場か。」

司令塔ノイズはイーターに向かって攻撃するが、

イーター「ほっ、よっ、はっ、と」

紙一重にかわしていく

イーター「これで終わりじやあああ!!!」

と言いつトマホークで司令塔ノイズを切り倒す。

イーター「ふいーおわったー」

龍騎「レントー」

ドレイク「レントさーん」

イーター「おっ！お前らも終わったか？ん?!」

龍騎「どうした？」

イーター「はあー、あれ、、、」

イーターの指さす方を見てみると、ある2人がいる。

シンフォギアの（天羽々斬）を纏った青髪の女性、風鳴翼、そして（ガングニール）を

纏った天羽奏だ。

イーター「はあー、、頑張るねーあんたら」

奏「悪いね、これも仕事なんでね。」

翼「今日こそ着いてきてもらうぞ、アンノウン（イーター）!!!」

イーター「なあー、そのアンノウン何ちゃらつてのやめてくんねえー、、かな!!!」

「と言いいーターは地面を殴り煙を出し2人の目をくらます、

翼「まて!!」

「と言いい煙をかき分けるがそこにはもういーター達の姿はなかった。

奏「あちやゝ」

翼「くっ!!」

すると2人に通信が入る

翼「はい、残念ながら、肺、それでは帰還します」

奏「弦十郎のダンナなんて?」

翼「帰還だつて」

奏「そうか(ほんと何モンなんだろうな)」

そう思いながら海を見る奏であった。

つづく

齒車

ーレント目線ー

あれから二日後、俺は（ツヴァイウィング）見に来た、ハルオとユウコは二人でデート、いや出かけてる、んでカンナと誠司は買い物に、んで今俺はコンサート会場にいる、いやー人多!!!さすがだなく（笑）さくて、俺も席探すか〜（大変）

ーレント目線終了ー

レントが必死に席を探してる頃、

ーライブステージ裏ー

「スウ〜・・・ハア〜・・・」

奏「緊張してるのか？翼」

翼「奏、、、」

緊張を解かすため深呼吸をしている翼に声をかける奏

翼「奏は緊張しないの？」

奏「するさ、でも、それ以上にこんなデツカイステージで歌える嬉しさでそんなん吹っ

飛んだよ！」

翼「そっか♪」

奏「それにアイツも見に来てんだ、緊張して失敗できないしな!!!」

翼「え〜つと確か名前は、コトブキ、レントだったっけ？」

奏「ああ！アイツはアタシが辛い時も悲しい時もなんかない時も励ましてくれたし
っ、」

翼「確かに彼は優しいし、いい人だし、」

奏「それに翼の部屋の片づけも手伝ってくれるしき！」

翼「もう！／＼／＼奏!!／＼／＼」

奏「ハハハハハ」

と言つて笑つていと

? 「いい顔だな、2人とも!!!」

翼「伯父さま、!？」

奏「ダンナ」

奏と翼が話している所へ、翼の伯父である（風鳴弦十郎）が来た

弦十郎「2人今日は頼んだぞ!!!」

奏「追う！任せときなダンナ！アタシらの歌で、会場を盛り上げてやるよ!!!」

翼「そして必ず、私たちのフォニックゲインで（ネフシユタインの鎧）を覚醒させて

見せませす」

そう、今回のライブは観客に歌を聴かせるのと同時に装者の2人が歌うことで発生する「フォニックスゲイン」で新たに発見された聖遺物「ネフシユタインの鎧」を覚醒させるためでもあった。

弦十郎「期待してるぞ2人共!!では頑張ってくれよ!」

弦十郎はそう言つてその場を後にし、奏と翼は歌の準備に取り掛かった。

—そこ一方でレントはと言うと—

レント「おっ!すいません、隣りいいですか?」

?「え?あ!はい!大丈夫です!」

席を見つけ隣りに座っていた少女に声をかけ許可をもらったので座っていた。

レント「ありがとうございます。」

?「いえいえ、大丈夫ですよ♪こんなに多いとなかなか空いてませんから♪」

レント「そうですか、」

?「あの私、立花響ともうします。」

レント「コトブキレントと申します。」

響「あの〜コトブキさんつて「レントでいいよ」あっはい、レントさんつて友達にすっ

ぽかされた感じですか?」

レント「違うけど響はそうなのか？」

響「友達と見に行くはずだったんですけど用事が出来て来れなくなって、もったいな
いから1人できたんです、はあく私って呪われているのかも、」

レント「ハハハ、まあまあそんな時もあるって！」

響「レントさんはどうなんですか？」

レント「俺？俺はまあ趣味だ（言えない友達だなんて）」

と言っている与会場が暗くなる

レント「おっ！そろそろ始まるみたいだな」

響「はい！」

すると音楽が流れステージに明かりが灯りそこから天羽奏、風鳴翼が出て歌いだす。

観客は一気にテンションが上がり会場内は熱気に包まれる。

響「楽しいですね！」

レント「ああ！」

するといつの間にか歌が終わり観客からのアンコール鳴り響く。

「もっともりあがっていきぞー！！！！」

『『『『『おおおおおおおおおお！！！！』』』』』

会場は盛り上がり、再び歌がはじまろうとした。

2人は人々を避難させる。

レント「こつちです！落ち着いて、慌てずに！でもなるべく急いで!!!」

レントは出入口で避難誘導をしながら持っていた銃で近づいてきたノイズを打ち貫く、響は逃げ遅れた人がいないか確認する。

響「よし！誰もいないな「響！あぶない!!」え？、うわああああ!!!」

突然観客席が一部崩れ響もそれに巻き込まれる、

響「イタタタタ、早く逃げないと、っ!」

立ち上がろうとするが落ちた衝撃で足を怪我していた。

すると響にノイズが迫る

すると、

奏「はああああああ!!!」

シンフォギアの（ガングニール^{!!!}）を纏った天羽奏がノイズを薙ぎ払う、すると、ノイズは響から奏に標的を変え、攻撃する。

奏「早く逃げろ!!」

響「っ!」

響は怪我した足を引きずりながら逃げようとする。

奏はノイズの攻撃を、槍を回転させ防ぐが槍にヒビが入る

奏「くっ!! 時限式じゃここまでか!!」

そして、

奏「しまった!?!」

レント「危ない!!、ぐっ!ぐおっ!!」

響「えっ?」

槍が砕け散りその破片が後ろにいた響の方へ飛んでいくが、仮面をつけたレントが身を盾にして守るが最後の大きな破片だけはレントの身体を貫通して響に突き刺さる。

奏「追い! しっかりしろ!! 目を開けてくれ!! 生きることを、あきらめるな!!」

奏は2人に駆け寄り必死に呼び掛ける。

すると、

響「あ、ありがとう、」

それを聞くと奏は何かを決心する。

翼「奏! だいじょうぶ?!」

シンフォギアの(天羽々斬)を纏った風鳴翼が駆けつける

奏「大丈夫だよ、翼。」

奏が無事と分かり安心する翼、すると奏は立ち上がりノイズの方へ体を向ける。

奏「いつか、、体の中空っぽにして、思いつきり歌ってみたかたんだよな、、」

翼「そう?」

奏「今日はこんなにも聞いてくれる奴等がいるんだ、、、アタシも全力で歌うよ」

翼「奏、、、まさか絶唱を!」

〈絶唱〉、それは装者の負荷を省みず、シンフォギアの力を限界を超え開放する捨て身の歌、最悪、命を落とす。

翼「やめて奏!!今のあなたが絶唱を使ったら死んでしまう!!」

奏「ノイズを倒せるなら、それでもやるs「ふざけた事いつてんじやねえ」えっ?」

声のする方を見ると仮面をつけた者が立っている、、、そう、レントだ

奏「何してんだ!!そんな傷で!」

奏が駆け寄るとレントは肩をつかみこう言った。

レント「生きることを、あきらめんなって言つといてお前が、あきらめてどうする!!!!お前がいなくなったら坡達やファン、何より今そこにいる相棒、こんなに悲しむ奴らがいるだろ!!!こんつバカ!!!」

奏「つ!!!!、分かつてる、、、んなことアタシが一番わかってんだよ!でも、もうこう

するしかないんだよ!!今倒さねえとたくさんの人たちが!!!」

レント「大丈夫、そのために今ここに俺がいる、、、」

と言うとレントはノイズの方に体を向ける

翼「ちよつとあなた!？」

奏「お、おい!! あんた普通の人間じゃやつらには!!」

レント「フツ、、安心しな、生憎オレは普通じゃ無いんでね、、あんたらはその子を守ってくれ。」

と言うとレントはイー・ジーンボールを作成する。

レント「頼むぜ、ノブナガン!」

と言うとレントの右腕が大型のガトリングガンの様なロングライフルのような銃に変異する。

奏「なっ、、!!」

翼「腕が、、、、!」

レント「さあ、、いくぞ、、!」

ダダダダダダダダダダダダダダダダ

銃声と、ともにノイズ達は撃ち貫かれ炭化していく、すると背後からもノイズが襲いかかる。

奏「おい! 後ろ「心配無用!!」」

と言うとレントは右腕の銃のスコープ部分に手を突っ込むと左腕もチヨキの様な人差し指のような銃になり背後のノイズを撃ち貫く

レント「コイツもくらえ!!!」

と言うと右腕の銃の鬼のような面が取れ、そこからも弾丸が出てノイズを打ち貫く、
レント「ノブナガン三段撃ち!」

ダダダダダダダダダダ

ダダダダダダダダダダ

ダダダダダダダダダダ

翼「す、すごい、あんなにいたノイズを、、、」

奏「あとはアイツだけか、」

レントは最後に残った大型ノイズに銃を向ける。

すると

『%&#\$\$*+,@#\$\$%&,~』

レント「ぐお!!!」

ノイズは液体の様なモノを吐きレントを攻撃、レントはそれを喰らい吹っ飛ぶ。

奏と翼は心配してレントに駆け寄る。

奏「おい!大丈夫か?!」

レント「ああ、」

翼「よかった、」

レント「ちよつとビックリしたがな、さーて本気で殺^{やるか}ル、」
と言うとレントは立ち上がる

レント「はああああああ」

するとレントの身体から黒い炎と灰が出てくる

そしてそれを薙ぎ払うと異形の者が立っていた、

翼「えっ、、」

奏「お前は」

そう、二人は知っているその姿を、そいつの名前を、、そう彼の名は、、

奏翼「イーター、、！」

イーター「さあ、行くぞ^{ゴミカス}ノイズ」

と言うとイーターは大型ノイズ向かって走り出す。

『#\$\$%&、’-*+!?!@||~!』

ノイズはまた液体を吐きつけるが、

イーター「同じ手を喰わけないだろう!!」

イーターはそれをかわしノイズに右ストレートを打ち込みノイズを吹っ飛ばす。

奏「つ、強え、、」

翼「ええ、、強すぎる、、！」

イーター「これで終わりだ、メフィスト！」

メフィスト『シエア!!』

イーター「モンスターX」

モンスターX『グオオオオ!!』

イーター「借りるぜ、破壊と厄災の力!!」

そういうと右手に闇、左手に稲妻が宿り両腕を十字に合わせる

イーター「ダークライジングシュートローム!!!」

黒い稲妻を纏った破壊光線がノイズに命中し消し飛ばす

イーター「ふう、させて」

と言うとイーターは奏が抱きかかえている響の所に向う

奏「何する気だ?もし妙なことしたら、」

イーター「んな事するかバーカ」

と言いつつイーターは響の傷口に手を置く、するとイーターの手から光が出て傷口が塞が

り響は息を吹き返す

イーター「次はお前なんだが、、」

奏「なんだ?」

イーター「その、胸に触れるんだがいいか?」

奏「お、おう」

そう言つて奏もイーターの治療でダメージを回復する、だが、それだけではなかった。

奏「なんだ?!」

翼「どつどうしたの?! そう」

奏「なんか、体がスゲエ軽い!」

イーター「治療と同時に体の毒素をぬいといた、もうあ、後、」

奏「なんだ?」

イーター「家族はもういいって言つてるぞ。」

奏「!!、、、」

翼「貴様!! いくらなんでも、でたらめをつ!!」

イーター「データラメじやあねえよ、てめえの後ろで泣いてるよ、、もう自分達のために

「わかつてるよ、、」

奏「わかつてるよ!! そんなこと!! でも、そうしねえとアタシはなんのため

に、、、、つ、、、、」

イーター「それは自分で考えるんだ、、、そうしないと俺みたいになるぞ、少なくとも

お前の歌はいい歌だ、、。」

翼「それはどういふことだ?」

イーター「さあな、とりあえずこれは預かつとく」

奏「あ！それは!!」

そう、イーターの手に握られているのは奏が纏っているはずのガングニールである。

翼「貴様!!」

奏「返せ!!」

奏と翼が奪い返そうとするがイーターは巧みにかわす。

イーター「代わりにこれやる。」

と言い、奏に何か投げ渡す。

見てみると黒い角の様なネックレスであった

奏「なんだこれ？」

イーター「理由が見つかるまでそれを纏え、使い方はシンフォギアシステムと同じだ、

それなら葉なしで纏える、んじゃ」

翼「逃がすか！」

と言いうが

イーター「よつと」

イーターは翼をかわし背中から羽を出し飛び去る。

翼「くつ」

奏「マジで何モンなんだ、あいつ」
数分後、弦十郎たちが駆けつけ、響、奏、翼は病院に行ったという、

続く